



山法師

寒河江中部小学校

学校だより

令和4年11月22日

校長 那須 隆秀

感動の中部小祭 伝えた「成長」と「感謝」 6年生 「心は一つ、大漁ソーラン」



学校ホームページにも「感動、感動、感動の中部小祭」という表現を使わせてもらいました。ご覧いただいた、学校運営協議会委員の皆様からも「感動した」という声をたくさん頂戴したことから、寒河江中部小の子どもたちの「人を感動させる力」は、本物であると感じています。



見てください、この表情。本気の顔。
中部っ子の「プライド」を感じます。

1年生 劇「くちばしコンテスト」

1年生の目標は、広い体育館の後ろで見ている人まで声を届けることでした。練習では、なかなか大きな声が出ない場面もありましたが、本番では全員が、「見ている人に伝わるように大きな声を出す」という目標を達成しました。自分たちで考えた動きもユニークでかわいくて、とてもよかったです。長い劇を自分たちの力で最後まで通せたこと、すごい「成長」です。



2年生 踊り「花笠音頭」「サチアレ」



2年生の「やっしょう、まかしよ、中部小それっ」の掛け声で会場が大いに盛り上がりました。山形っ子の踊りでもある花笠が終わったかと思うと、体育館の壁際でハッピーを素早くかつ丁寧にたたんで、次の踊りの場所でスタンバイするのです。その動作の滑らかさ、立っている姿勢の美しさ。そして始まる幸せいっぱいの笑顔のダンス。見ている人が本当に「幸せ」を感じる踊りでした。

3 年生 劇「私たちの寒河江市を守ろう」

3年生の劇の面白さは、もし50年後の未来に、寒河江の大切なものがなくなっていたら、、、という発想でした。さくらんぼ学習や慈恩寺見学など授業で学んだことをベースにしながらも、未来にタイムスリップするストーリーで観客を引き付け、最後は寒河江市の「市民歌」で盛り上げる。学びの成果と「ふるさとを愛する心」が伝わってきました。



4 年生 合奏「なないろ」合唱「10才のありがとう」



「生まれて10年たちました」という歌い出しで始まる合唱「10才のありがとう」。10年たったんだね。いろんなことあっただろうな、と思いながら一人一人の顔を見ていると泣けてきました。

立っている姿、歌っている姿、全ての場から成長が見て取れました。そしてご家族への感謝の気持ちも確かに伝わりました。

5 年生 劇「米 - co - me Puzzle」

5年生の劇は、一言で言うと「自分たちで創り上げた」劇だということ。これはすごく価値のあることです。練習場面でも、先生が監督役になるのではなく、自分たちで演技のアドバイスをし合っていました。

寒河江中部小が全校でがんばっている、「自分で」「自分から」「自分たちで」というキーワードを実現した劇でした。



10 年連続全国の舞台へ 寒河江中部小学校金管バンド

11月5日の東北大会で、見事金賞となり、10年連続で全国の舞台に進みます。素晴らしいですね。

全国大会は、12月10日(土)さいたまスーパーアリーナで開催されます。金管バンドの皆さん頑張って下さい。



中部小祭のステージ